豊浦町

資料4

町の地域公共交通の現状

公共交通種別	現状	課題
定時運行バス （道南バス）	● 本町地区と洞爺湖町、喜茂別町中山峠を経由し、札幌駅までを運行する札幌洞爺湖線が1路線運行 ● 地域間幹線系統として本町地区と洞爺湖町を通過し、伊達市の伊達紋別駅までの運行を行う豊浦線が1路線運行 ● 市町村単独バス路線として本町地区と洞爺湖町洞爺駅を通過し、洞爺湖温泉地区までの運行を行う洞爺湖・豊浦線1路線を運行	● 豊浦線につきましては、次年度からの要件を満たさないとのことで、令和7年度運行（令和6年10月）より地域間幹線系統から外れる予定 以降の運行については道南バス及び近隣市町と協議中
定時運行バス （町直営：町営バス）	● 交通空白地有償運送として町内北部地域を運行する山梨線を1路線、大岸地区を経由し礼文華地区までの礼文華線を1路線を運行	● コミュニティバスとの連携が無い（重複するコースを通過、有償と無償の違い） ● 国の補助制度を活用できていない（今の時代に沿った役割） ● 運行の最適化が必要（停留所、時刻）
鉄道	● 長万部～東室蘭間を結ぶJR北海道室蘭本線の無人駅として、豊浦駅、大岸駅、礼文駅、小幌駅の4駅があり、小幌駅は観光利用という名目で町がJR北海道に負担金を拠出して存続維持を図っている。	● 大岸駅、礼文駅については利用者の減少により、駅の適正化に向けた協議を継続中
コミュニティバス （町直営）	● 無償の定時定路線のコミュニティバスとして、ハイエースを本町内1路線と、大岸地区を経由し礼文華地区までの1路線を運行	● 財源が不安定化（アイヌ補助金） ● 運行の最適化（乗降箇所にムラがある） ● 有償化の議論が不十分（いつまで続く実証実験）
福祉有償運送 （町直営：移送サービス）	● 要介護認定における要支援1、2の方を対象に、対象地域を町内から伊達市までとし、要件としては通院のみ	● 料金形態の見直し（安価すぎる） ● 移送先、移送場所の見直し（現在は伊達市まで、病院への通院だけ）
外出支援サービス （社協：独自サービス）	● 上記、町の要件に当てはまらない方を多少に室蘭市までの臨時的な移送対応を実施	● 室蘭市の病院までのニーズが増えている。 ● 定期的な利用ニーズが増えている（基本は臨時的な対応のみ）。 ● 1回の移送に係る時間が長く、職員の負担が大きい。
スクールバス （町直営）	● 山方面から通う小通学生、礼文華、大岸方面から通う中学生を対象に送迎を行う	● 高校生の親の通学負担増（駅までの送迎） ● 送迎時間の多様化（待機時間） ● 送迎人する人員の確保（委託者の確保）
学童移送 （町直営）	● 放課後に礼文華小学校、大岸小学校の生徒を本町地区にある学童保育「青空キッズクラブ」までの移送対応を行う	● 学校との時間調整が難航 ● 保護者、学校、移送者間の情報共有に課題（欠席連絡がない） ● やむなく町職員が移送対応する場面あり